

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
金田地区

平成30年3月

千葉県木更津市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	定住人口	千人	3	5.4	3.5	確定 ●	×	あり	3.8	H29年7月	×	バスターミナルの路線拡張時期の遅れ等により、まちの魅力向上による情報発信が効果を上げていないため。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標値達成には至らなかったが、土地区画整理事業地区内に、職住近接に寄与する新たな、民間企業の開業が予定されており、今後も定住人口の増加が見込まれる。
指標2	交流人口	万人/年	53	74.6	60.2	確定 ●	△	あり	68.6	H29年7月	△	バスターミナルの運行開始や、乗り入れ路線の拡張時期が遅れたため。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標値には達しなかったものの、平成29年4月以降においても乗降者数が増加傾向にあり、このままの状況が続けば平成29年度末に目標値に達することが期待される。
指標3	公民館等利用者数	千人/年	7	9.4	9.2	確定 ●	△	あり ●	7.7	H29年7月	△	現在の公民館は、施設が手狭で、駐車スペースも7台しかなく、地域住民の利用に十分に答えられなかったため。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	前回の評価値から減少となったが、今後、地域交流センターの整備完了により利用者数の増加が期待される。
指標4	活動サークル団体数	団体	11	13	17	確定 ●	○	あり		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地域交流センターの整備完了後、団体数の更なる増加が期待される。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	民間企業の進出数	件	0	/	8	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新たに、1社の民間企業が開業に向けた建設工事を開始しており、今後も更なる企業誘致に向けて動きかけを行っていく。
その他の数値指標2	(仮称)金田地域交流センターの潜在利用者割合	%	—	/	13.1	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地域交流センターのコンセプトや施設概要を周知するため、地元説明会を開催し、さらに同センターの敷地を利用し、津波を想定した避難訓練を実施したこと等により、施設利用への機運が高まった。
その他の数値指標3	道路の安全・安心の確保に対する満足度	%	—	/	62.5	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路案内標識や通学路標識・防犯灯整備により、道路利用の快適性・安全性が高まった。今後も、自治会が設置する防犯灯に対し、支援を行っていく。
その他の数値指標4	災害時の安全・安心の確保に対する満足度	%	—	/	67.3	確定 ●	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区全域を対象として、津波を想定した避難訓練を実施したことにより、地域住民の防災への意識が高まった。今後も、安心で安全な住環境のまちづくりに向け活動を続けていく。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> 成果を持続させるために 行う方策 	人口の増加に寄与する企業の受け入れ促進	・木更津市企業誘致方針(H26策定)において、当該地区を企業誘致拠点として位置付け、これに基づき、立地奨励制度を活用した戦略的な誘致活動を行った。	・新たに1社が、開業に向けた建設工事に着手した。	・立地決定後、開業に至っていない区画があるため、早期開業に向け事業者の意向を確認するなどの働き掛けが必要。 ・新たな企業誘致の促進を図る。
	高速バスターミナルへの各方面からの運行路線乗入れ推進	・新しい路線の乗入れや便数の増加について、バス運行事業者との協議を行った。	・平成28年6月から新宿線の乗入れを開始し、平成28年9月から品川線、横浜線、川崎線の乗入れを開始した。 ・結果、計7方面の路線となったことから、乗降者数が事後評価時の60.2万人から68.6万人となり、交流人口の増加に寄与している。	・鉄道駅と繋がる市内定期バス路線が乗り入れていない。 ・さらなるバス運行路線及び便数の拡大や各方面からの路線バス乗入れにより、広域や市内からの利用促進を図る。
	地域交流センターの利用者・活動団体数を増加させる情報提供の拡充	・地域住民及び関係者が相互に連携を図り、当地区の身近な課題に自主的・主体的に対処し、豊かで住み良い地域づくりを推進するため、公民館を事務局とした「金田地区まちづくり協議会」を設立した。 また、地域交流センター整備に伴う地元説明会を開催し、当センターのテーマの(交流・連携・学び・情報発信機能を強化し、地域力の向上を目指す)説明や施設の機能についての説明を行った。	・公民館を中心に地域住民一人ひとりが「豊かで住み良い地域づくり」を推進するため、積極的に活動に取り組み、当地区の住民が身近な地域課題の解決のため、地域交流センター予定地も含めて避難場所として設定し、津波を想定した避難訓練が実施された。 ・また、地域交流センターの説明会や、前述した避難訓練を通し、地元住民の施設利用に伴う機運が高まった。	・地区全体の利便性・暮らし易さ・住環境が向上し、定住人口が増加したが、新・旧住民のコミュニティの希薄化が課題となった。 ・今後は、この課題解決のため、公民館を中心に地域交流事業を展開し、新・旧住民の新たな繋がりや絆の構築に努め、さらに、高齢者、子育て世代の新たな交流の場を創設し、更なる公民館の利用者・活動団体数の拡充に努める。
	さらなる安全・快適な住環境づくり	・津波を想定した、避難訓練を実施した。 ・地域各所に、防犯キャッチフレーズを掲示したのぼり旗を設置した。	・地域住民の災害への意識が高まった。 ・のぼり旗の設置により防犯意識の啓発が図られた。	・さらなる地域の災害対応能力の向上に向けた、環境づくりを進める必要がある。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> まちづくりの目標を達成するための改善策 残された課題・新たな課題への対応策 その他 必要な改善策 	<ul style="list-style-type: none"> 職住近接に寄与する生活利便施設(商業・飲食・観光・医療・保育園・スーパーマーケットなど)の誘致 	・地域交流センター整備に伴う地元説明会を開催した。	・地元に対し、生活利便施設として地域交流センターのコンセプトや施設概要の周知が図られた。	・現在の公民館が手狭であるため、地域交流センターの早期完成に向け事業を促進する。 ・学校施設について、定住人口が徐々に増加しているため、今後、児童、生徒数の推移を見ながら対応を検討する必要がある。 ・金田西特定土地区画整理事業の推進により、更なる施設の誘致を図る。
	・ハブ化の推進で年間乗降者数の増加を図る	・バスターミナルに乗り入れている全てのバス運行事業者が参加する、現状の課題や今後の施策展開などについて協議する場の設定に向け、バス運行事業者と調整を行った。	・協議する場の設定には至っていないが、引き続き調整を継続する。	・ハブ化の早期実現には、多くの路線の乗り入れが必要なことや、料金徴収システム等がバス運行事業者によって異なることから、多くの課題が残っている。
	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園の整備の促進 新旧住民の交流の場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 金田東2号公園及び金田東5号公園の整備 地域交流センターの詳細設計を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 憩いの場や自治会活動等の拠点として地域の利便性の向上が図れた。 平成29年度に地域交流センターの建設工事を開始する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 未整備の都市公園が多数残っているため、整備を促進する。 新旧住民の繋がりが希薄であり、新たな絆の構築に努め、さらに、高齢者、子育て世代の新たな交流の場の創設を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> 週末のアクアライン上り方向や大型商業施設周辺の渋滞の緩和 スピード運転や交通事故発生時の低減 	・道路網整備を推進するため、中野畑沢線中野工区の事業化に向けた詳細設計や用地測量を実施した。	・道路整備の事業化に向け、関係機関の調整が図られた。	<ul style="list-style-type: none"> 早期の事業化に向け、具体的な道路整備事業者を決定する必要がある。 引き続き、渋滞緩和に向けた道路網の整備を推進する。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
地域交流センターの利用者・活動団体数を増加させる情報提供の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の新・旧住民の交流の場として、現在の公民館で「コミュニティカフェ」を開催し、地域の情報交換を行う。 自治会未加入者も対象として、ソーシャル・ネットワーク・サービスを活用した地域情報の提供を行う。 	H29年度	<ul style="list-style-type: none"> 開催にむけて、地元住民・自治会との連携強化が必要。 自治会未加入者に対し、活動周知方法も含めいかに参加を促すが課題である。 地域交流センターの魅力や施設の概要について情報を発信する。